

平成二十五年五月二十六日

大相撲夏場所も本日千秋樂、横綱白鵬が十回目の全勝にて通算二十五回目の優勝を果す。輝かしく優勝の實績は更なり、インタビュアーにての白鵬關の應答實に見事にして、特に日本語の發音ならびに語彙の選擇申し分なし。久しぶりの東京場所にての快擧を「江戸にて優勝嬉し」など日ごろの勉強俥ばれ、さすが大横綱の風格を窺はせり。

近時日本語の淵源ツングース諸語の裡にありとの説有力にして、白鵬關の母國語モンゴル語も同じウラル・アルタイ語族なれば、日本語習得容易なるべけれども、モンゴル以外を含め、全體的に外國出身力士の日本語、特に發音の正確さは夙に認めらる。その理由として、角界にては傳統的の弟子教育を外國出身の力士にも殆どその儘施す一環として、日本語も日本人に教ふるが如くに教ふるが故に、自づから日本語式發音、抑揚を習得すと思はる。

一方、日本在住の西歐出身者にして日本語に堪能の人多けれども、その發音には免角西歐語的抑揚を聴くこと屢々なり。無論日本人語學教師がかかる抑揚を教ふるの筈なし。文語の苑發起人にしてタイ在住の大口道雄先生、嘗て「タイ通信」に、彼の地に於ける日本語教育すべてローマ字にて行はる、實情に對し、自ら教壇に立ちて、初歩より漢字かな交り表記にて指導の御經驗を載す。

是を考ふるに、國內に於ても外國人向け日本語教育もローマ字にて行なはる、例多かめり。ローマ字は英語のアルファベットに同じければ、謂はば世界共通の文字として、日本語を學ぶに至便と思はる、も、その文字列を見るに思はず「英語式」に發音し勝ちとなり、かくて西歐語的抑揚發生するに至らむ。

元來、我ら日本人が英語を學ぶに片假名を以てせば、その發音必ず日本式となり果て、特に國語に於けるカタカナ語の發音、特に抑揚に於て大いに原語に異なることよりして、ローマ字使用の日本語學習による發音の變移自明なり。ドイツにては、外國人にドイツ語を教ふるに一切ドイツ語以外を使用せずとも聞けり。

愈々小學校に於ける英語必修の開始を迎ふるに至る。何事も幼少の頃より始むるは晩學に勝るといふも、限りある少年勉學の時間に於ける優先順位として英語學習果して最上位を占むるや疑問ありと雖も、實施する上は正規の初歩教育たるべく、特にネイティブの活用亦不可缺なり。願はくば彼の地の有爲の青年多數來日して、小學生に英語發音の基礎を授け、延いて將來の國際的連帶を築かむことを。

その一方にて文語を含む正統の日本語の教育に力を入れ、將來外國人に日本語の神髓を教授し得る人材の育成も亦急務にして、之無くしてはグローバル化の中にて日本文化、就中日本語の獨立を全うするの途は困難を極はむべし。努<sup>ゆめ</sup>、國語の授業時間數を割きて英語の時間に當つること勿れ。